

まんさく

第271号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



コロナ禍で外部の方も来苑ご遠慮される中でしたが、沢山の表彰を受章されました♪



心底優しいお人柄に私たち職員も優しくさせられます♡

秋田からいらしたテツノさんもめでたく100歳！おめでとうございます。食事等お手伝いすると、必ず、「すかだねな〜(申し訳ない、おかげさま)」と言って下さる優しい方。出遇えて、職員は幸せ者です♡

穏やかに長生き、おめでとうございます♪
高橋テツノさん 100歳
《大正10年10月23日生》

福祉展示会に出展した自分の作品を鑑賞してきました

西和賀町社会福祉協議会様主催の福祉作品展示会が10月12～17日とまちなか交流館にて開催。光寿会のお年寄りたちも自分が手掛けた作品などを一目見ようとはせ参じたのであります♪




衆議院議員選挙 期日前投票に行 ってきました♪

10月28日、6名の入居のお年寄りが投票に行ってきました。自ら書く事が難しくなっても、託す思いは色褪せません(^^♪



碧祥寺報恩講参拜

11月7日、3名のお年寄りたちが行って参りました。昨年果たせなかつた参拝の分、拜んでこれましたかね。

認知症を持つ方々とのコミュニケーション

【10月26、27日 18時15分～】



認知症の人のケアを深めるためにフランスで生まれたエマニエル・デュロワの考え、方と実践を学び、自分たちの普段のケアに照らし合わせながら、大切にすべき点を

確認し合った。技術的なことの奥には、「相手も大事に思っている心」がなければ成就し得ない。今回は研修後の1週間、大切にしたい中味を実践中である。



防災訓練「部分訓練で濃密な中身を」

【10月13日(通報・消火)、20日(避難) 14時30分～】



今回は、通報訓練と消火訓練から13日、避難訓練を併せて防災総合訓練とした。部分にした効果として、一つ一つ集中して濃い内容に成った事があげられる。ケガ人救助訓練の中では、ケガの度合いや災害の状況次第で選択順が変わる事も。



様々な分野の学びを日々の中で積み上げながら...

令和3年度下半期も「知る」を大切にスタート！

【事務】「①事務部門」 ☆氏家洋也☆

法人キーワード		2021年度共通のキーワードは『知る』	
2021年度上半期のイメージ	テーマ	自ら出向き相手を知ろう	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		部署やユニットに出向き、自分の目で観て知ろう。	コロナ禍にある今、家族との繋がりを今一度大事にしたい。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①オンライン面会のより良い環境づくり ⇒お年寄りと家族の面会を通して、その人に合った形を知る。 ②部署やユニットからの要望などの実現に向け、より良いものにするため、自ら出向き現状を知る。	①ご家族からの電話対応の際、ご家族の想いを知る。 ②直接会えないからこそ、苑の様子をホームページ等により家族に知ってもらえるよう取り組む。	



2021年度上半期の検証	<p>目標① ※コロナ感染予防対応の中での面会など、ご家族と入居者に少しでも安心していただけるように、『今できる最善の事は何か』を考えながら対応することができた。 ※オンライン面会に加えて、窓ごし面会も行うようになり、どちらでもスムーズに面会できるように段取りし、介護職員との協働により良い形で行うことができた。 また、面会時に要望があった際は、どうしたら良いかをもちかえり、相談することができた。 ※オンライン面会の電波状況が悪く、通信が途切れてしまった時に、対処方法がわからず面会が中断してしまうことがあった。</p> <p>目標② ※ホームページの更新が最近では広報紙のみになっている。定期的にトピックスを上げ、施設の様子を少しでも伝えられるようにしたい。</p>
--------------	--



2021年度下半期のイメージ	テーマ	自ら出向き相手を知ろう	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		部署やユニットに出向き、自分の目で観て知ろう。	コロナ禍にある今、家族との繋がりを今一度大事にしたい。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①オンラインおよび対面による面会のより良い環境づくり ⇒お年寄りと家族の面会を通して、その人に合った形を知る。 ⇒オンラインの通信環境の改善を進める。 ②部署やユニットからの要望などの実現に向け、より良いものにするため、自ら出向き現状を知る。	①ご家族からの電話対応の際、ご家族の想いを知る。 ②定期的にトピックスをアップできるように、ホームページ委員会のメンバーと情報を共有しながら取り組む。	

想... 災害を捉える ~大阪から発信をいたします⑦~

『コロナ禍の中で想うこと』防災士・松岡由美 さん

3.11以降に防災士資格取得。防災精神とあり方を発信し続けて下さっております。コロナのせいで何でもしてしまう場に遇う中、元々人間が抱えていた課題についてご指摘下さいませ。

コロナ禍の中で想うこと

賛否両論渦巻いた東京オリンピック・パラリンピックでした。選手の間には心から感動しました。スポーツを通じて、人とのつながりや自分の置かれた環境や状況、自分自身の状態を受け止め、奮い立たせ、努力を続けることの尊さを改めて教えてもらいました。

▼ ●●のせいだ；；●●だから出来ない！と言いつつ、認めてしまいうる、個人としても、自分の在り様を問われた気がしました。

コロナ禍において、感染予防の観点から「ソーシャルディスタンス」や「掛けられませんでした、ソートシャル（非社会的な）ディスタンス（非距離）」として誤認される場面もあり、最近では「フィジカル（身体的な）ディスタンス」に言い換えられてきました。

光寿会の皆様同様、私たちも社会的、身体的、関係性も含めて、手と手を取り合い、温度が触れあえる距離でのつながりを大切にしてきました。

感染症予防を考える中で、当法人のスタッフがこう話してくれました。実際はもっと道徳の表現でしたが、オブラートに重く包みますと；

▼（必要な対策を講ずればできる）必要なケアや関わりさえも、それはできない。これはできない。ということを見聞きする。そんな専門職やなくても言える。この状況の中でも専門職として、どうやってたうでできるのか、できることを一つでも探すことが必要なのに；；

言葉には、その人の持つ価値や在り様も滲み出ると思っています。

▼○○について、どうするんですか？

この時の主語と責任は、相手にあるように感じます。一才、

▼○○について、どうしましたるか？

この時の主語は、目の前の人とわたしでしょう。

▼振り返れば、御恩を受けた人ばかり

▼あかるとは変わる。変わってないなら、あかっている

10年以上前に七くなられたある利用者さんや、ご自宅に飾っていた2つの言葉です。

▼●●のせいだ；；ではなく、●●のおかげで

▼○○について、わたしはどうか行動する？

コロナ禍により、変わったこと、変わらざるを得ないことは、沢山ありました。それ以上に、オブラートに包まれていた「元々あったもの」が露呈されたようにも思います。

コロナを理由にすれば何とでも言えてしまう状況であります。か、できない理由探しをして、誰かに責任を問う前に、自分事として物事を捉え、自分の言葉を振り返り、行動を変えられる自分でありたいです。

（福）ライフサポート協会
防災士／社会福祉士

松岡由美

必死の思いを持つ。た団体様であれば、防災関連セミナー講師も引き受けて下さる先生の筈です。宣

今月の登録者の方々
16名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

いよいよ冬支度！？…「ひなたぼっこの日常」



(右)お茶会バス旅行
(左)福祉展示会鑑賞

第4回『運営推進会議』(10月28日)

※外部委員の名、利用者/名、職員/名

職1 コロナ世情も随分落ちつきましたので、本日はひなたぼっこ利用者のAさんにもご出席頂きました。一言いれただけですが、入ったばかりなので、何かどうしたとか、こうだとかお話しできる状態ではないです。とにかく、皆さんにお世話になってるところです。

委1 何か思うことありましたら、この場で遠慮なく話していいですからね(笑)。

職2 さて、コロナ禍も随分状況が良化して参りましたので、面会や外出も対面が可能となりました。また、行き来も全国制限を解除しました。ただし、一週間前

利1 入ったばかりなので、何かどうしたとか、こうだとかお話しできる状態ではないです。とにかく、皆さんにお世話になってるところです。

委2 前回の会議からは想像もつかない状況となりましたね。

委3 ワクチン接種が出入り可能な目安にもなっている所も多いですが、ワクチン接種ができない体質の方もいます。そういった人のためのPCR検査等の条件等については触れられてないようですが、その点についてはいかがでしょうか。

職2 PCR検査については、必要に依りて実施する考えです。

委4 開業医に通院出来る方は検査できるが、新規での受入れは行い話も聞きます。(次号に続く)

光寿会へのご支援おかげさまでした

寄 附

寄 贈

訪 問 等

★ 高橋明夫様 [湯ノ沢]

★ 高橋明夫様 2名 [湯ノ沢]
 ★ 高匿名様 [西和賀町]
 ★ 和賀クリーニング様 [北上市]
 ★ 特養博愛の園様 [大阪府]
 ☆ 高橋ちづ子様 [下前]
 ☆ 熊谷富夫様 [湯本]
 ☆ 杉谷政行子様 [秋田県]
 ☆ 小松陽子様 [秋田県]

避難訓練立会い・指導 (10/20)

★ 西和賀消防署員様 … 3名

運営推進会議出席 (10/28)

☆ 運営推進外部委員様 … 9名



最後まで家族に大切に尊ばれたお母様往く



高橋ユミさん【97歳】

いつもやさしい表情のユミさんでした。誕生日の色紙をプレゼントした際、嬉しそうに微笑んで下さった顔が印象的でした。また、息子さんと夫婦にとっても大事にされていた事も思い出深いです。

『今生より往く』

第97回



久保孝喜

第97回目も、前回に引き続き、家族会地域役員・掃部佳代子さんの弟様・久保孝喜さんにご執筆頂きました。

母の母親は、おおらかで優しいおばあちゃんでした。若い時分から膝が悪く、晩年は歩くこともままならず、いつも座ったり這ったりしていた記憶しかありませんから、母・タイもまたその血を受け継ぎ、膝痛で悩まされた後半生を送ることになったのでしよう。あろうことか私もまた、今になって膝痛をおぼえるこの頃なのは、致し方のない「宿業」なのではないかと。宿業とそのおばあちゃんとは、当時としてはとても長生きでした。晩年、娘である母が

元気です！家族会♪

長生きも、よいでねな〜②

ちに語っていたのが、

「なかいぎも、よいでねもんだじゃ〜おめでだぢ〜」

(長生きも、容易ではな
いもんだよ、貴方たち)

娘時代の母が、どんな日々を送っていたのかは定かではありません。農家の娘のそれは、戦前のどこの家でも同じようなものだったに違いありませんが、わずかに残る写真で見る限り、愛くるしくも小柄な子どもっぽい田舎娘そのものです。そんな母が、子級上の部落の先輩であり、父親が役場の書記を勤めている家の長男で、真面目くさい男性(後の私の父)と結婚することになったのです。どんな経緯かは知りませんが、農家としては大きくないものの、小姑となる兄弟姉妹が何人も同居する「ドドメキ」という我が家の嫁に成った!

光寿会の日々 271号☆



イラスト：1000

とても機転の利いた返答をしてくれるKさん。周囲の事もよく観察されていて、職員も幾多の場面で助けてもらった。

溜めたものは気体にて外へ出す。よい事は内に貯めて浄化させる。気持ちのよい生き方、学ばせて頂いた。

おれはひとりの修羅なのだ

宮沢賢治

宮沢賢治は生前に刊行された詩集『春と修羅』の巻頭近くの同名の詩に詠う。

ああかがやきの四月の

第七回 夢佛房
自然法爾 (じねんほうに)

著名な宗教家を招いて、花巻温泉の旅館を会場に何年にも渉って講演会を開催したりした。

そのような父と、慈愛深い

はざしり燃えてゆききするおれはひとりの修羅なのだ

「修羅」とは、勝ち目のない戦いをし続ける者。賢治は誰を相手に戦い続けているのだろうか。

賢治の父・政次郎は花巻地方を代表する一流の教養人であり、また宗教的信念の持ち主だった。商家を経営する一方で、いち早く、首都における仏教の近代化運動に触発され、

母との間に長男として生まれた賢治は、何度か父の許からの自立を試みる。経済的にも精神的にも独り立ちへの願望。父の「真宗」に対し、対蹠的急進的な「日蓮主義」仏教への懐疑もあつた。しかし、遂に果たし得ず、少年の人生を終えた。

詩の「修羅」は、偽善の父に刃向かう賢治そのものだ。その政治即ち賢治の死後、我がマのうちのひとりの真宗を離れ、賢治に寄り添った。

夢佛房 丸田善明師

おわりに

志村けんさんのドキュメンタリーの中で語られていた言葉。

「まんねり」って言われるの全然怖くないですよ。まんねりに行くまでが大変ですよ。むしろ、まんねりだ、って言って欲しいぐらい。

志村さんは、「だいたいよぶだろ」「アイソン」だっふんだろ等々、沢山のギャグをせ間に流行させた。何十年と同じギャグを言い続けるその心。志村さんは言う。

「世の中が飽きる前に、自分が飽きちゃダメなんだよ。」

一回一回を真剣に臨む姿勢。毎日の食事も仕事も、あたり前ではない。初めての事として今がある。

※小さい事でも同じくやり続ける事は宝。